

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年2月14日

【四半期会計期間】 第96期第3四半期(自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)

【会社名】 群栄化学工業株式会社

【英訳名】 Gun Ei Chemical Industry Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 有田 喜一

【本店の所在の場所】 群馬県高崎市宿大類町700番地

【電話番号】 027-353-1818 (代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 野田 秀和

【最寄りの連絡場所】 同上

【電話番号】 027-353-1810

【事務連絡者氏名】 同上

【縦覧に供する場所】 群栄化学工業株式会社東京支店
(東京都中央区京橋1丁目14番4号)

群栄化学工業株式会社大阪支店
(大阪市北区芝田2丁目2番17号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第95期 第3四半期 連結累計期間		第96期 第3四半期 連結累計期間		第95期	
		自 至	平成23年4月1日 平成23年12月31日	自 至	平成24年4月1日 平成24年12月31日	自 至	平成23年4月1日 平成24年3月31日
売上高	(百万円)		18,347		18,690		24,070
経常利益	(百万円)		948		1,338		1,174
四半期(当期)純利益	(百万円)		784		818		1,057
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)		479		1,097		960
純資産額	(百万円)		34,096		35,266		34,576
総資産額	(百万円)		42,082		42,888		42,339
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)		10.93		11.40		14.72
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)						
自己資本比率	(%)		79.3		80.1		79.9

回次		第95期 第3四半期 連結会計期間		第96期 第3四半期 連結会計期間	
		自 至	平成23年10月1日 平成23年12月31日	自 至	平成24年10月1日 平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)		2.45		3.29

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は以下のとおりであります。

(化学品事業)

平成24年7月6日付けで、インド共和国タミルナードゥ州チェンナイ市に連結子会社であるインディアジーシーアイ レヂトップ プライベート リミテッドを新規設立しております。

(化学品事業・食品事業・不動産活用業)

平成24年12月28日付けで、群栄興産株式会社の株式を一部売却し、当社持分比率が低下したため、持分法適用の範囲から除外しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要や期後半の政権交代への期待感から景気回復の兆しが見られました。しかしながら、欧州の財政不安の長期化や中国をはじめとした新興国の経済成長の鈍化、領土問題の経済への影響等、世界経済は依然として不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは事業環境の変化に対応し、新製品での新規顧客の獲得やきめ細かい技術サービス等を提供するなど積極的な営業活動を行ってまいりました。この結果、売上高は18,690百万円（前年同期比1.9%の増加）となりました。

利益面では、前年度から引き続き、生産効率の向上に取り組み、コスト削減活動に努めたことに加え、在外子会社の利益貢献が高まったことや、高付加価値製品の販売が伸張した結果、営業利益は1,239百万円（前年同期比51.0%の増加）、経常利益は1,338百万円（前年同期比41.1%の増加）となりました。四半期純利益につきましては、株式相場下落に伴う投資有価証券評価損214百万円を特別損失に計上したことにより818百万円（前年同期比4.3%の増加）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

[化学品事業]

化学品事業においては、自動車関連向け樹脂及び建設機械向け樹脂が世界的な需要の低迷や、中国での日本製品の販売不振の影響を受け低調に推移いたしました。電子材料向け樹脂が半導体向けや液晶向けといった既存製品だけでなく、その周辺部材に使用される製品の開発と販路の開拓を行った結果、売上高は13,512百万円と、前年同四半期と比べ32百万円（0.2%）の増収となりました。利益面では、コスト削減活動に努めたことに加え、在外子会社の利益貢献が高まった結果、セグメント利益（営業利益）は971百万円と前年同四半期と比べ235百万円（32.0%）の増益となりました。

[食品事業]

食品事業においては、夏場の猛暑の影響及び電力制限に対する熱中症対策用として飲料向けの異性化糖の販売が好調に推移したことに加え、高付加価値製品の拡販に注力した結果、売上高は4,989百万円と、前年同四半期と比べ309百万円（6.6%）の増収となりました。利益面では、コスト削減活動に努めたことに加え、高付加価値製品の販売が伸張した結果、セグメント利益（営業利益）は151百万円（前年同四半期37百万円のセグメント損失（営業損失））となりました。

[不動産活用業]

不動産活用業においては、前年並みに推移した結果、売上高は188百万円と前年同四半期と比べ0百万円（0.5%）の増収、セグメント利益（営業利益）は116百万円と前年同四半期と比べ6百万円（5.0%）の減

益となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は前連結会計年度末と比べ549百万円増加し、42,888百万円となりました。これは、売上高の増加により売上債権が増加したためであります。

負債合計は前連結会計年度末と比べ140百万円減少し、7,622百万円となりました。これは、借入金返済により減少したためであります。

純資産合計は前連結会計年度末と比べ689百万円増加し、35,266百万円となりました。これは、利益剰余金が配当金の支払いにより減少したものの、四半期純利益の計上により増加したことに加え、その他有価証券評価差額金が有価証券の時価回復により増加したためであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は697百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	176,211,000
計	176,211,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	89,983,085	89,983,085	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 1,000株であります。
計	89,983,085	89,983,085		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年12月31日		89,983		5,000		7,927

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成24年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 18,092,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 71,264,000	71,264	
単元未満株式	普通株式 627,085		
発行済株式総数	89,983,085		
総株主の議決権		71,264	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が5,000株(議決権5個)含まれております。
 2 「単元未満株式」欄には自己保有株式795株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 群栄化学工業株式会社	高崎市宿大類町700	18,092,000		18,092,000	20.1
計		18,092,000		18,092,000	20.1

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、赤坂有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,989	4,502
受取手形及び売掛金	1 7,128	1 7,615
有価証券	1,508	309
商品及び製品	1,955	1,888
仕掛品	23	44
原材料及び貯蔵品	723	962
その他	528	554
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	15,856	15,877
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	19,989	20,084
減価償却累計額及び減損損失累計額	13,262	13,584
建物及び構築物（純額）	6,727	6,499
機械装置及び運搬具	25,142	25,377
減価償却累計額及び減損損失累計額	21,665	22,060
機械装置及び運搬具（純額）	3,477	3,316
土地	7,651	7,646
リース資産	48	59
減価償却累計額	22	30
リース資産（純額）	26	29
建設仮勘定	346	779
その他	2,428	2,460
減価償却累計額及び減損損失累計額	2,165	2,196
その他（純額）	263	264
有形固定資産合計	18,491	18,535
無形固定資産		
	105	44
投資その他の資産		
投資有価証券	7,216	7,553
その他	753	961
貸倒引当金	84	84
投資その他の資産合計	7,884	8,431
固定資産合計	26,482	27,010
資産合計	42,339	42,888

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,023	3,215
1年内返済予定の長期借入金	1,244	502
未払金	996	1,041
未払法人税等	59	73
賞与引当金	214	95
その他	75	170
流動負債合計	5,613	5,099
固定負債		
長期借入金	525	834
退職給付引当金	1,003	1,016
環境対策引当金	16	16
負ののれん	5	-
その他	598	655
固定負債合計	2,149	2,523
負債合計	7,762	7,622
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	25,689	25,689
利益剰余金	8,020	8,403
自己株式	4,713	4,715
株主資本合計	33,996	34,377
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	241	369
為替換算調整勘定	406	373
その他の包括利益累計額合計	165	4
少数株主持分	745	892
純資産合計	34,576	35,266
負債純資産合計	42,339	42,888

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	18,347	18,690
売上原価	15,307	15,190
売上総利益	3,039	3,499
販売費及び一般管理費	2,218	2,259
営業利益	821	1,239
営業外収益		
受取利息	90	70
受取配当金	33	36
負ののれん償却額	16	5
持分法による投資利益	7	-
その他	55	29
営業外収益合計	203	142
営業外費用		
支払利息	21	14
為替差損	8	-
支払手数料	41	-
持分法による投資損失	-	0
その他	4	30
営業外費用合計	76	44
経常利益	948	1,338
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	-	24
保険解約返戻金	3	-
特別利益合計	4	25
特別損失		
固定資産処分損	15	36
投資有価証券評価損	41	214
会員権評価損	-	6
特別損失合計	56	257
税金等調整前四半期純利益	895	1,106
法人税、住民税及び事業税	51	107
法人税等調整額	9	89
法人税等合計	41	196
少数株主損益調整前四半期純利益	853	909
少数株主利益	68	90
四半期純利益	784	818

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	853	909
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	196	128
為替換算調整勘定	174	60
持分法適用会社に対する持分相当額	3	1
その他の包括利益合計	374	187
四半期包括利益	479	1,097
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	479	979
少数株主に係る四半期包括利益	0	117

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	
(1) 連結の範囲の重要な変更	第2四半期連結会計期間より、新たに設立したインディア ジーシーアイ レヂトップ プライベート リミテッドを連結の範囲に含めております。
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更	当第3四半期連結会計期間より、群栄興産株式会社の株式を一部売却し当社持分比率が低下したため、持分法適用の範囲から除外しております。

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)	
当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。	
これによる当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。	

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。
なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形	161百万円	150百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
減価償却費	1,558百万円	1,218百万円
負ののれんの償却額	16 "	5 "

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	215	3	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金
平成23年10月14日 取締役会	普通株式	215	3	平成23年9月30日	平成23年12月8日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
 該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	215	3	平成24年3月31日	平成24年6月25日	利益剰余金
平成24年10月12日 取締役会	普通株式	215	3	平成24年9月30日	平成24年12月10日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
 該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計 (注)
	化学品事業	食品事業	不動産活用業	
売上高				
外部顧客への売上高	13,479	4,679	187	18,347
セグメント間の内部売上高 又は振替高				
計	13,479	4,679	187	18,347
セグメント利益又は損失()	736	37	122	821

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計 (注)
	化学品事業	食品事業	不動産活用業	
売上高				
外部顧客への売上高	13,512	4,989	188	18,690
セグメント間の内部売上高 又は振替高				
計	13,512	4,989	188	18,690
セグメント利益	971	151	116	1,239

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

当該変更により、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益に与える影響は軽微であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	10円93銭	11円40銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	784	818
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	784	818
普通株式の期中平均株式数(千株)	71,811	71,796

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

(剰余金の配当)

第96期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)中間配当については、平成24年10月12日開催の取締役会において、平成24年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	215百万円
1株当たりの金額	3円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成24年12月10日

(過去の有価証券投資に対する民事提訴について)

当社は、オリンパス株式会社をめぐる、いわゆる一連の損失飛ばし事件において同社が出資する『株式会社アルティス』、『株式会社ヒューマラボ』、『NEWS CHEF株式会社』の株式の投資について、当社に対し当該有価証券投資の勧誘を行った横尾宣政氏、羽田拓氏を被告として損害賠償請求の民事訴訟を提起いたしました。

なお、横尾宣政氏については平成24年7月11日付けで、羽田拓氏については平成24年12月4日付けで、それぞれ訴状を東京地方裁判所に提出し、受理されております。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月8日

群栄化学工業株式会社

取締役会 御中

赤坂有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 池 田 勉 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 荒 川 和 也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている群栄化学工業株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、群栄化学工業株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。